

資料 1 - 6

# 福島第一原子力発電所 2016年度の主な進捗状況

2017年3月17日

The logo for TEPCO (Tokyo Electric Power Company) is displayed in red, bold, uppercase letters. It is positioned in the upper right corner of the page, above a thick red horizontal line that spans the width of the page.

東京電力ホールディングス株式会社

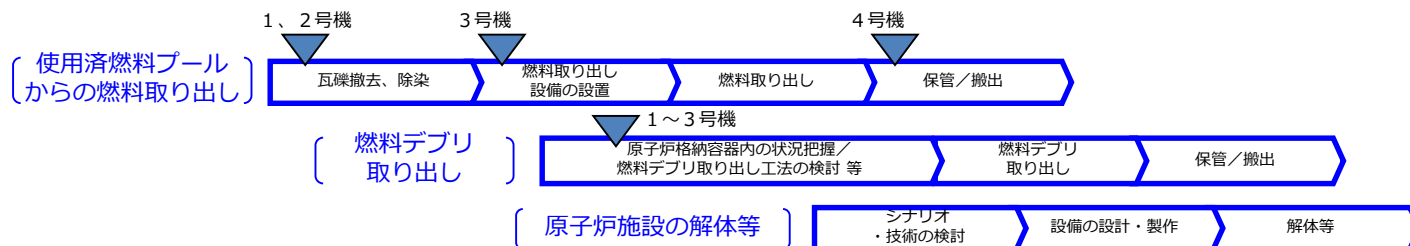
1. 福島第一原子力発電所 1～4号機の概況
2. 1～3号機 プール燃料取り出し等に関わる状況
3. 汚染水対策の概要と現在の状況
4. 放射性廃棄物の管理
5. 労働環境の改善状況

# 1. 福島第一原子力発電所 1～4号機の概況

# 1.1 福島第一原子力発電所1～4号機の概況

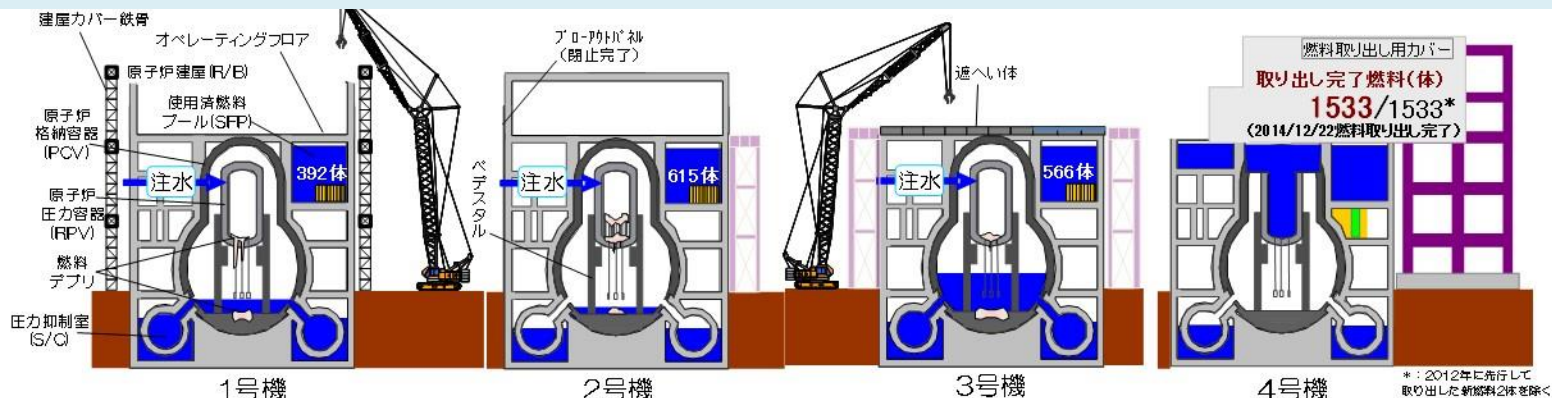
- 福島第一原子力発電所は、中長期ロードマップに基づき、使用済燃料・燃料デブリ※取り出し、汚染水対策等、廃止措置等に向けた取組みを進めている。  
※事故により溶け落ちた燃料
- 使用済燃料プール内の燃料取り出しについては、2014年12月に4号機で完了し、現在1～3号機で準備を進めている。
- 1～3号機の燃料デブリ取り出しについては、原子炉格納容器内の状況把握に向けた調査等を進めている。

## 「廃炉」の主な作業項目と作業ステップ



## 1～4号機の状況

- ・各号機ともに「冷温停止状態」を継続しています。
- ・汚染水処理設備の処理能力の余裕を増やし、建屋内汚染水の浄化促進に繋げるため、原子炉への注水量を低減している。  
 1・3号機は、4.5m<sup>3</sup>/hから目標注水量3.0m<sup>3</sup>/hに低減しました。原子炉圧力容器等の温度は想定範囲内で推移している。  
 また、2号機は3月より注水量を低減していく予定。



監視項目	1号機	2号機	3号機	4号機
圧力容器底部温度	約14℃	約18℃	約17℃	燃料が無いため監視不要
燃料プール温度	約24℃	約26℃	約26℃	約14℃

(2017年2月22日時点)

## 2. 1~3号機 プール燃料取り出し等に関する状況

## 2.1.1 1号機の状況（1 / 2）

- 使用済燃料プールからの燃料取り出しに向け、震災直後に設置した建屋カバーの屋根パネル・壁パネルの取り外しを2016年11月に完了した。パネル取り外し以降も、敷地境界等に設置したダストモニタ指示値の有意な変動はない。
- オペレーティングフロア（以下、「オペフロ」という。）には、崩落した屋根等の瓦礫が散乱している。現在、オペフロの瓦礫撤去計画策定のための調査を実施しており、3月下旬より、防風シート等取付のため、柱・梁の取り外しに着手予定。

### 実績・計画工程

2016年度				2017年度		
4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	上期	下期	
散水設備設置、建屋カバー解体 等				現在		
	▼ 6/30散水設備設置、運用開始	▼ 9/13壁パネル取り外し開始				
		▼ 11/10壁パネル取り外し完了				
		オペフロ調査				
				防風シート設置、瓦礫撤去 等		

建屋カバー壁パネル  
取り外し作業の状況  
(2016年11月10日撮影)



オペフロ調査状況



(2016年12月21日撮影)

### 建屋カバーの解体工事の流れ

- ・屋根パネル残り5枚の順次取り外し
- ・オペフロ調査
- ・風速計設置



完了

- ・散水設備の設置
- ・小ガレキの吸引



完了

- ・壁パネル取り外し
- ・オペフロ調査



- ・防風シート取付等  
(壁パネル解体後取付)



防風シート

現在実施中

# 【参考】放射性物質濃度の監視体制

- 発電所全体からの影響を把握するために、放射線や放射性物質濃度等を監視している。
- 1・3号機では、燃料取り出しに向け、オペフロ上等で作業を実施しているが、空气中的放射性物質濃度は警報設定値に比べ低い値で推移している。

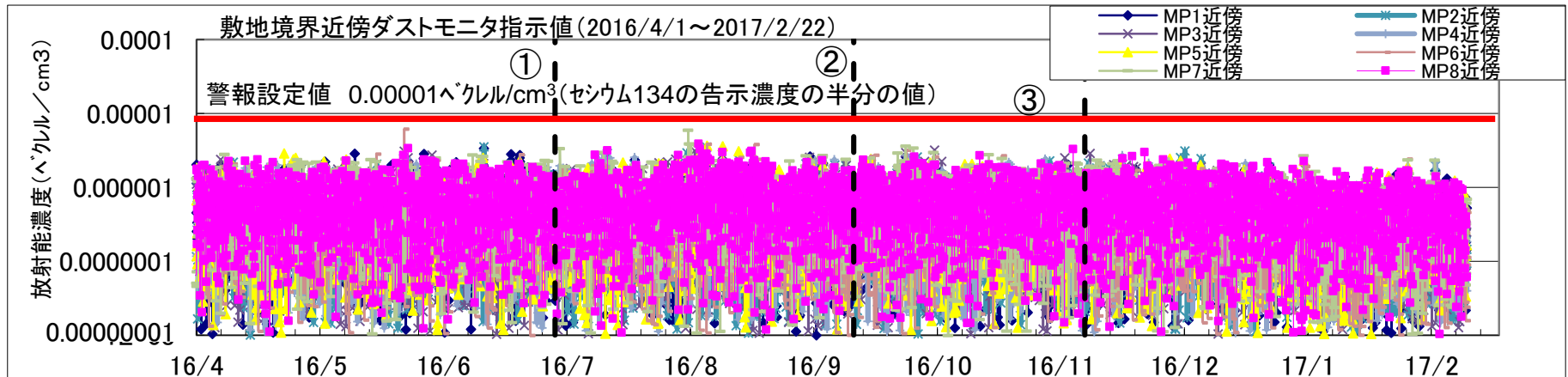


構内の監視体制

凡例	監視箇所
●	オペフロ上のダストモニタで監視(1, 3号機各4箇所)
●	構内ノーマスクエリアのダストモニタ(10か所)
△	敷地境界ダストモニタ(8箇所)による監視
●	敷地境界モニタリングポスト(MP)(8箇所)

### 主な作業実績

- ① 散水設備運用開始(2016/6/30)
- ② 建屋カバー壁パネル取り外し開始(2016/9/13)
- ③ 建屋カバー壁パネル取り外し完了(2016/11/10)

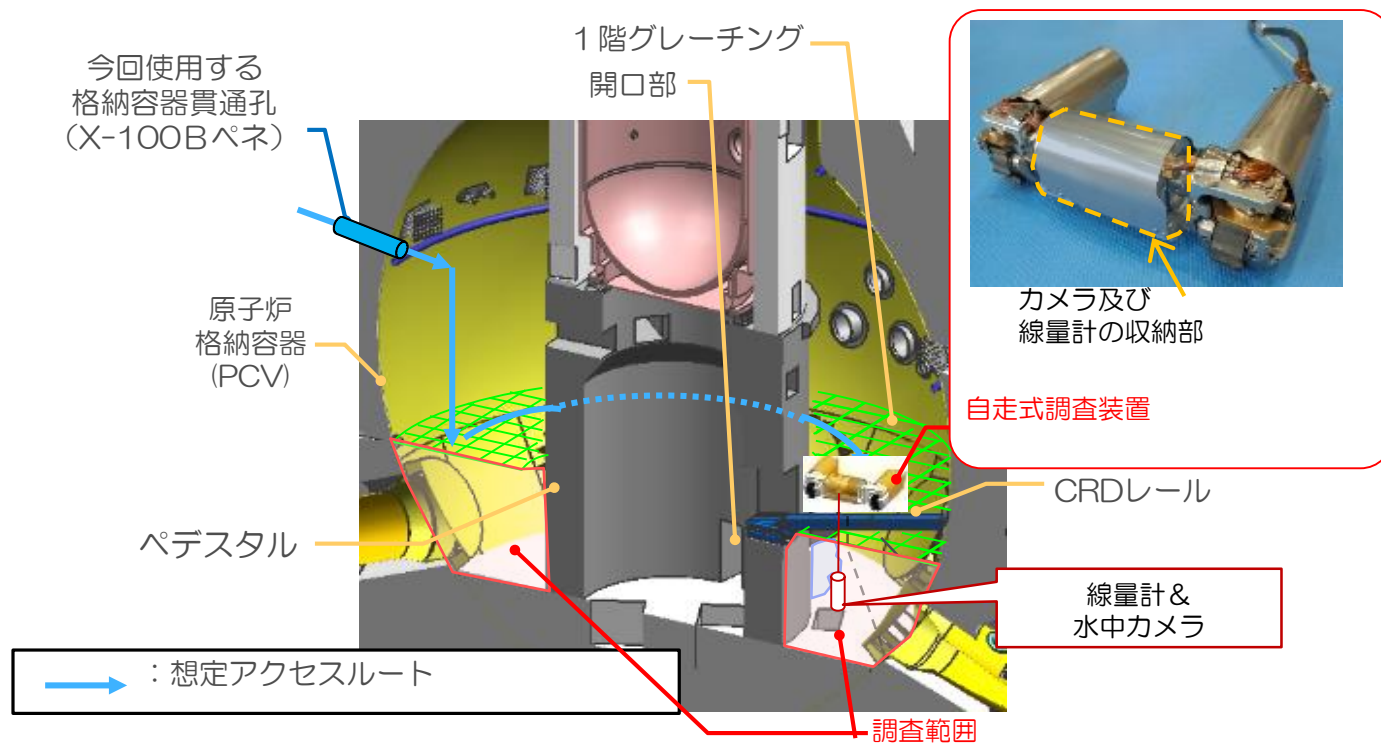


## 2.1.2 1号機の状況（2 / 2）

### PCV内部調査【1号機】

- 2015年4月に実施した、1階グレーチング上の調査結果を踏まえ、ペDESTAL外地下階へのデブリの広がり状況を調査するため、2017年3月に自走式調査装置を投入。  
調査では、1階グレーチングから線量計、カメラ等を吊り下ろし、地下階の状況を確認中。

#### PCV内部調査概要図





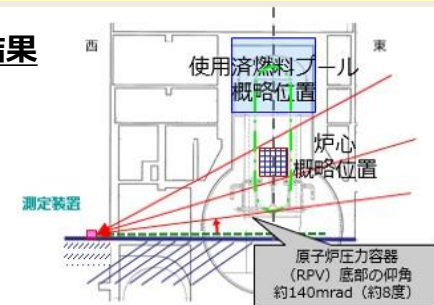
## 2.2.1 2号機の状況 (1/2)

- 使用済燃料プールからの燃料取り出し
  - ・2号機原子炉建屋は震災前の形状を保っているが、作業の安全性、敷地外への影響、早期リスク低減の観点を考慮し、原子炉建屋上部を全面解体することを計画している。
  - ・原子炉建屋上部解体に先立ち、オペフロ内で準備作業（使用済燃料プールの養生設置等）を行うための搬出入用の開口を設置する。（2/21、構台設置完了。引き続き、前室※設置作業を実施中。）※放射性物質の飛散抑制のため、開口全体を覆う計画
- 格納容器内部調査等 (1/2)
  - ・原子炉内燃料デブリの位置を把握するため、2016年3月～7月にかけて、原子炉建屋を透過する宇宙線由来のミュオン（素粒子の一種）を測定した。測定の結果、燃料デブリの大部分が圧力容器底部に存在していると推定している。

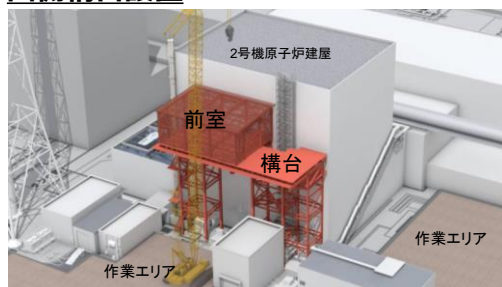
### 実績・計画工程

2016年度				2017年度	
4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	上期	下期
路盤整備等			現在		
西側構台設置等					
▼ 3月～7月ミュオン測定				使用済燃料プール養生、 原子炉建屋上部解体・改造等	
				▼ 1月～2月格納容器内部調査	

### ミュオン測定結果



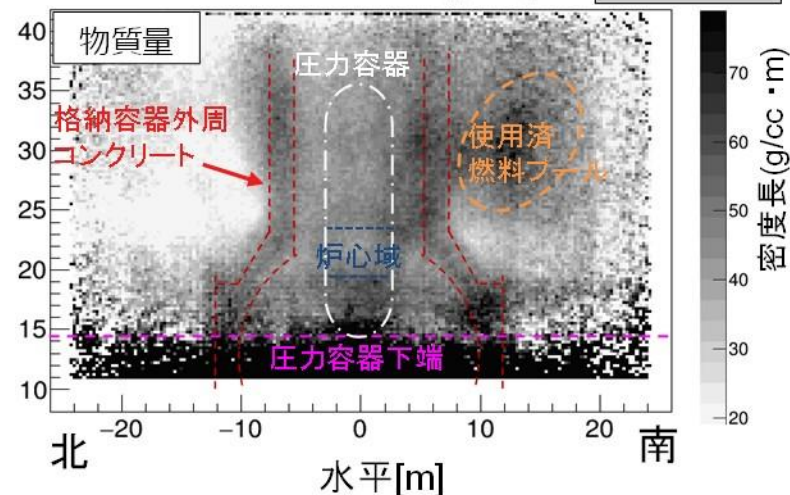
### 西側構台設置



構台完成イメージ



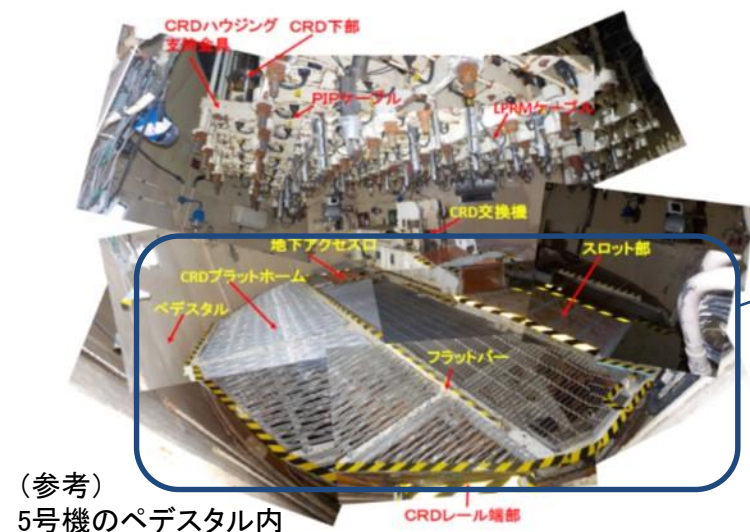
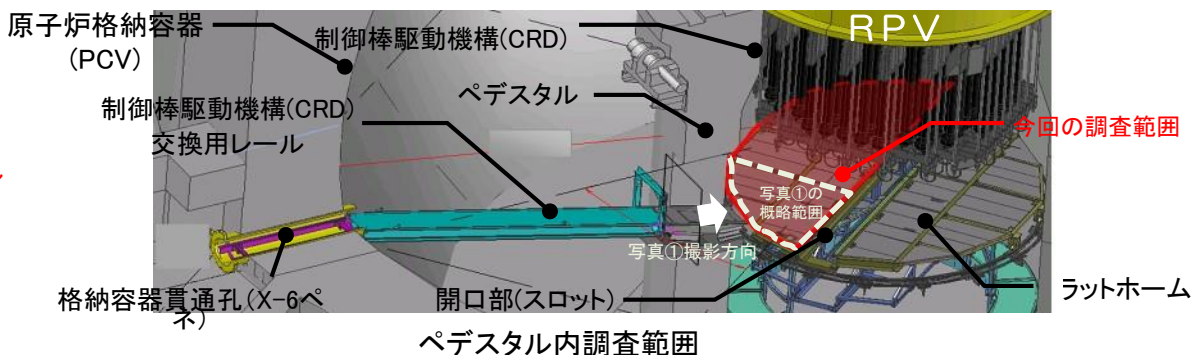
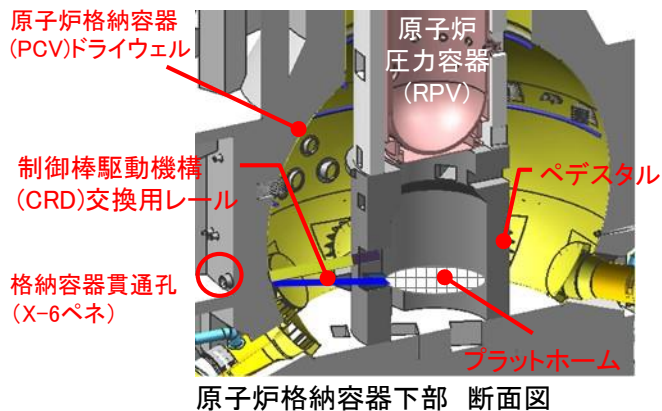
2号機原子炉建屋 西側構台建方状況



## 2.2.2 2号機の状況 (2/2)

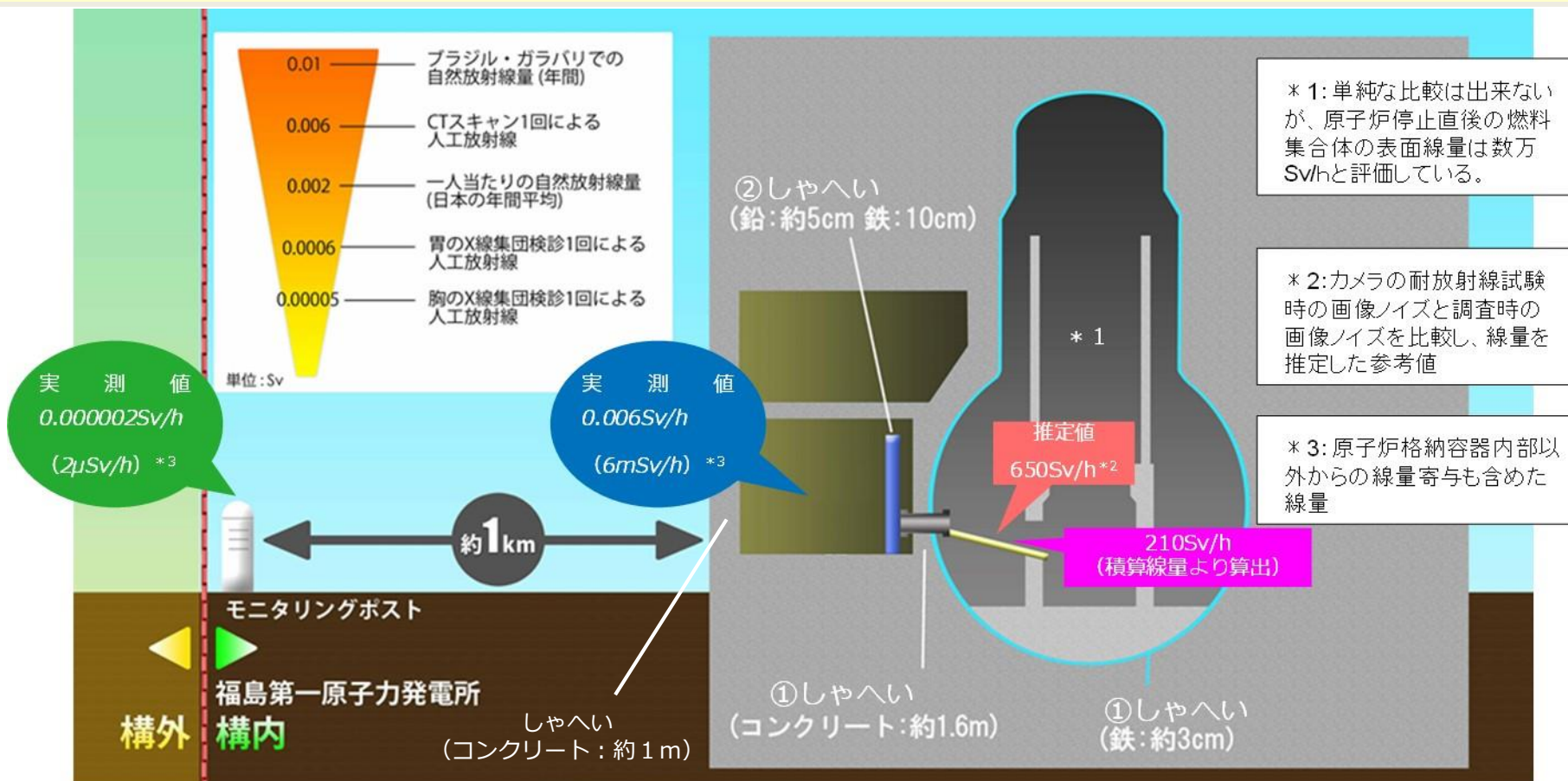
### ■ 格納容器内部調査等 (2/2)

- ・2017年1月～2月にかけて、格納容器内部の調査を行った。CRD交換用レール及びペDESTAL内において、堆積物やグレーチングの脱落などの状況を確認した。
- ・また、線量計を搭載したロボットによる調査により、CRD交換用レール上において、約210Sv/hの線量率を確認した。
- ・今後、一連の調査で得られた情報を評価し、今後の格納容器内部調査の計画に反映する。



# 【参考】2号機格納容器内部調査で確認された線量について

- 体外から受ける放射線量は、「遮へいをする」「距離をとる」「時間を短くする」ことで低減できる。
  - ・2号機の格納容器内で確認された線量は、遮へい（鉄，コンクリート，鉛の壁）等により低減され、構外への影響はない。・・・①
    - （参考：敷地境界境界付近における放射線量は $2\mu\text{Sv/h}$ 程度）
- また、作業員も同様に遮へいと時間管理（交代対応）により、被ばく低減を図っている。・・・②



## 2.3.1 3号機の状況 (1/2)

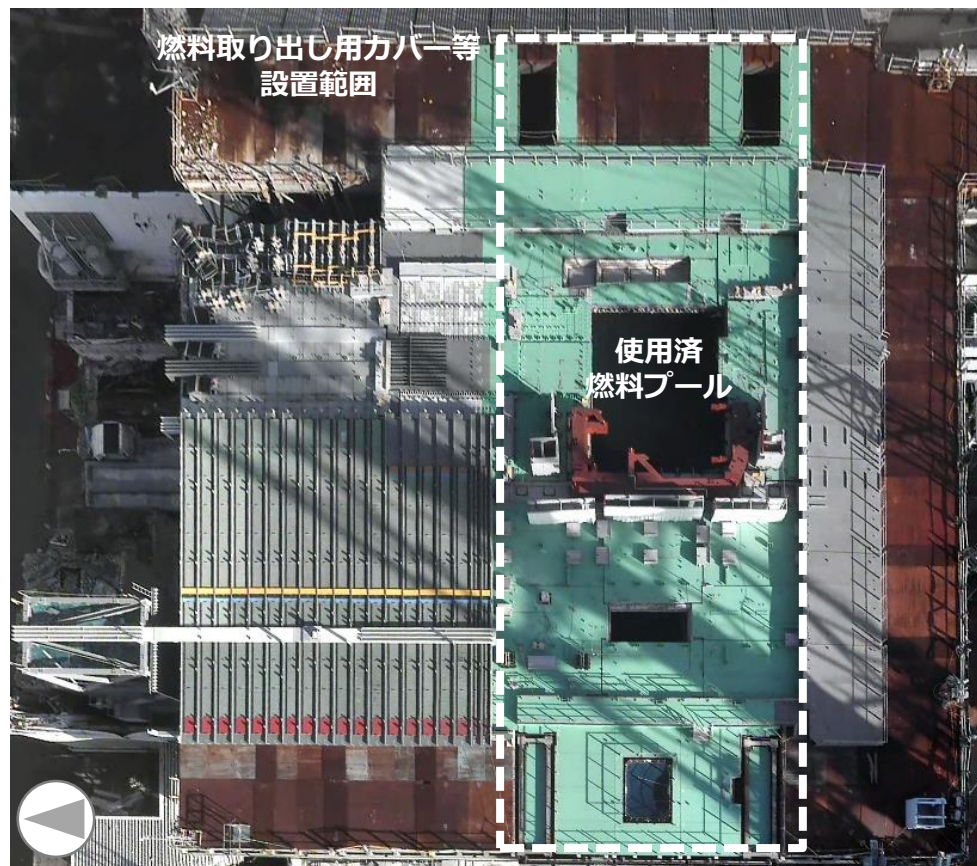
- 燃料取り出し作業等の一部は有人作業となるため、継続的に有人作業が可能なレベルまでオペフロ床面の除染及び遮へいによる線量低減対策を実施した。（除染：2016年6月10日完了、遮へい：2016年12月2日完了）
- 現在、燃料取り出し用カバーの設置作業を実施している。



大型ガレキ撤去着手前のオペフロ（撮影日2011年3月24日）



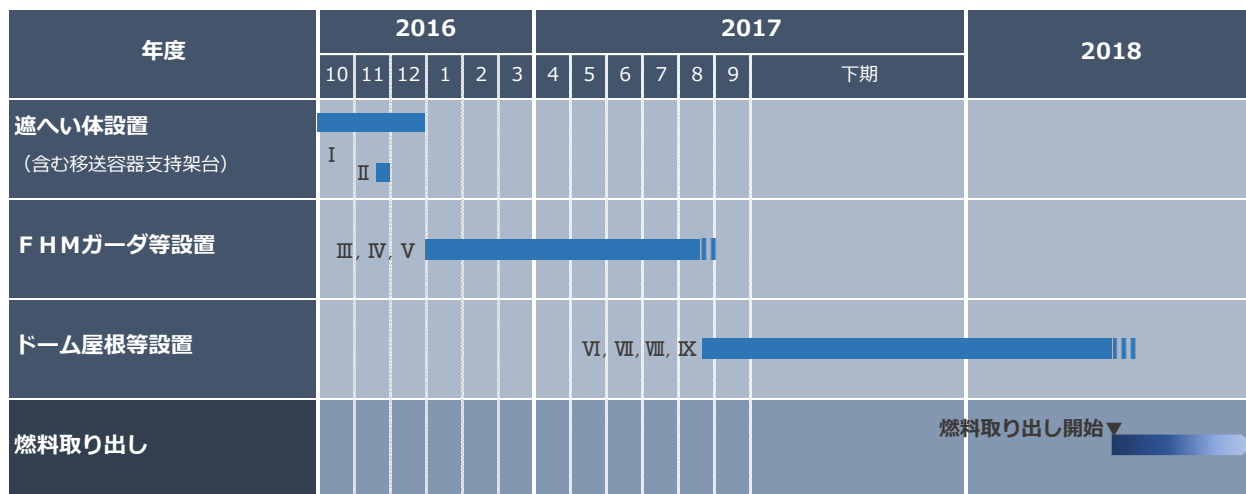
大型ガレキ撤去完了後のオペフロ（撮影日2014年1月31日）



オペレーティングフロア遮へい体設置完了（撮影日：2016年12月12日）

## 2.3.2 3号機の状況 (2/2)

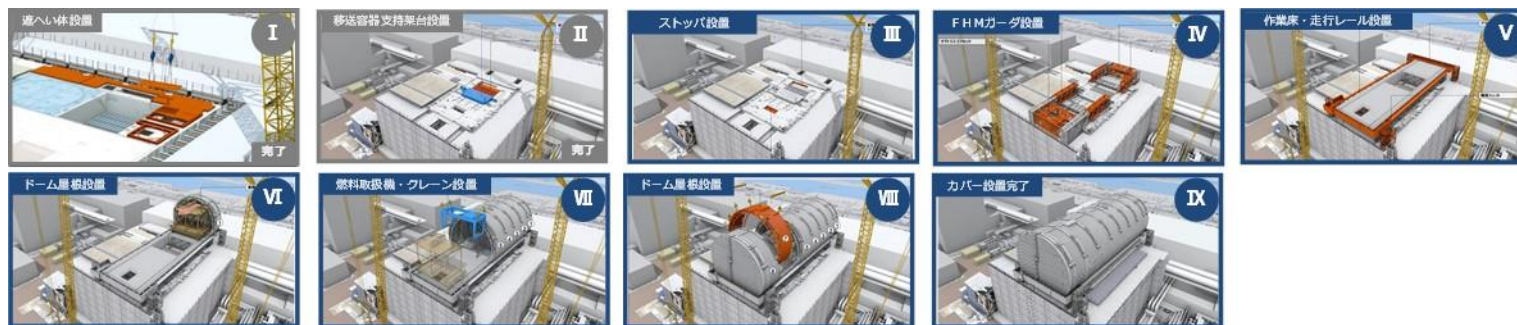
- ・使用済み燃料プールからの燃料取り出しに向け、2016年末に除染・遮へい工事が完了し、2017年1月より燃料取り出し用カバー等設置工事に着手した。
- ・追加の除染・遮へい体の設置やクレーン等作業用機器の不具合対応等を行い、安全に作業が出来るよう線量低減を図ってきたことにより、燃料取り出し開始時期は2018年度中頃となる見通し。
- ・引き続き、安全最優先で作業を進めていく。



(補足) I ~ IX : 下図作業ステップ番号を示す

- 【作業ステップの概要】
- ステップIII ~ IV : 門型架構の設置
  - ステップV : 作業床および走行レールの設置
  - ステップVI ~ IX : ドーム屋根部材および燃料取扱設備等の設置

他作業との干渉、工事進捗等により工程が変更する可能性がある。

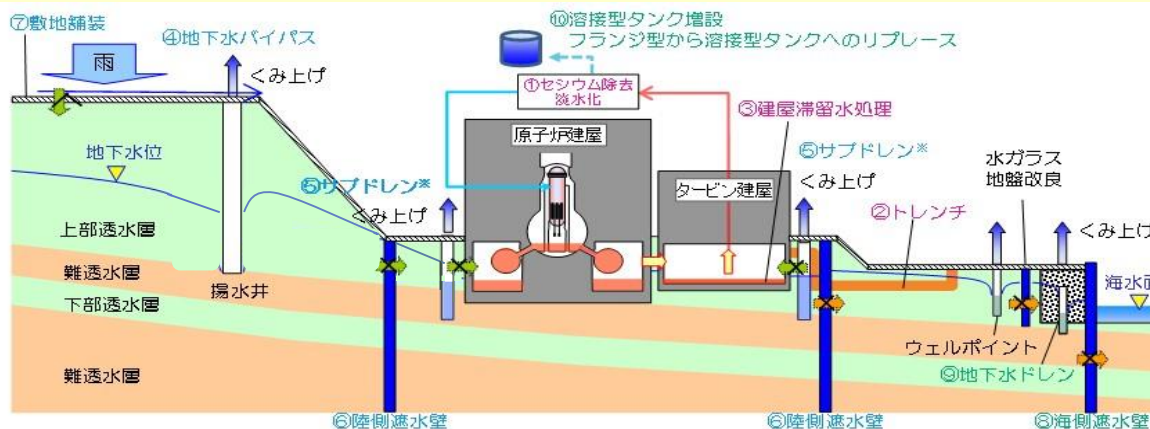


燃料取り出し用カバー等設置の作業ステップ

### 3. 汚染水対策の概要と現在の状況

### 3.1 汚染水対策の概要

- 福島第一原子力発電所では、山側から海側に流れている地下水が原子炉建屋等に流れ込み、新たな汚染水となっている。
- このため、「汚染源を取り除く」、「汚染源に水を近づけない」、「汚染水を漏らさない」という3つの基本方針に基づいて、予防的・重層的に対策を実施している。



※：建屋周辺の井戸

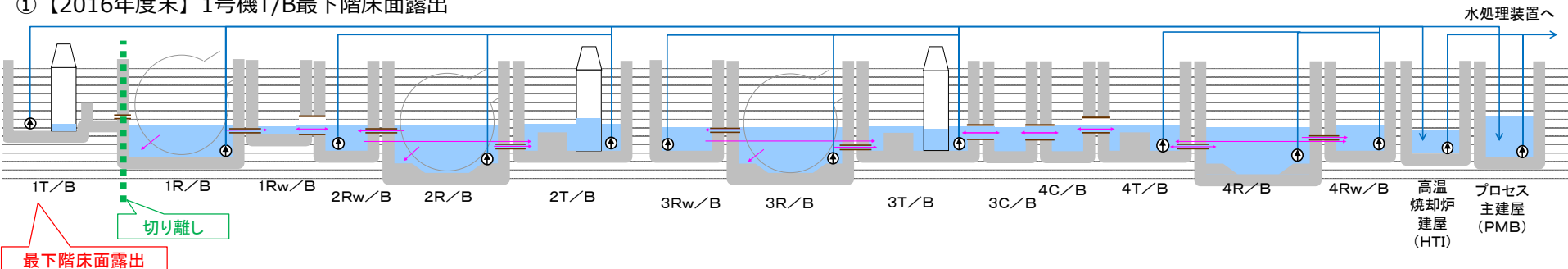
汚染水対策		実施状況	
方針1 汚染源を 取り除く	①多核種除去設備による汚染水浄化	2015年5月27日、RO濃縮水処理完了。安定して処理を継続中。	安定運転継続
	②トレンチ(※)内の汚染水除去 ※配管などが入った地下トンネル。	トレンチ内の汚染水除去完了。(2号機:2015年6月30日、3号機:2015年7月30日)	完了
	③建屋滞留水処理	1号機:タービン建屋の切り離し完了。(2016年3月16日) 2020年の処理完了に向けて、作業継続中。	作業継続
方針2 汚染源に 水を 近づけない	④地下水バイパスによる地下水汲み上げ	2014年5月21日より排水を開始。安定して汲み上げを継続中。	継続運用
	⑤サブドレンでの地下水くみ上げ	2015年9月14日より排水を開始。安定して汲み上げを継続中。	継続運用
	⑥凍土方式の陸側遮水壁の設置	2016年3月31日より凍結開始。	凍結継続
	⑦雨水の土壤浸透を抑える敷地舗装	2016年3月、10m盤等を除いた計画エリアの敷地舗装を計画通り完了。	約9割舗装完了
方針3 汚染水を 漏らさない	⑧海側遮水壁の設置	2015年10月26日、遮水壁閉合を完了。遮水壁前の海水放射能濃度が低下・維持。	閉合完了
	⑨地下水ドレンによる地下水くみ上げ	2015年11月5日より汲み上げを開始。安定して汲み上げを継続中。	継続運用
	⑩タンクの増設 (溶接型へのリプレース等)	・新たに発生する汚染水発生量を満足するようにタンクの増設等を継続中。 ・フランジタンクの漏えいリスクを低減するため、溶接型タンクへのリプレースを継続中。	増設継続

## 3.2 汚染源を取り除く（建屋滞留水の処理）

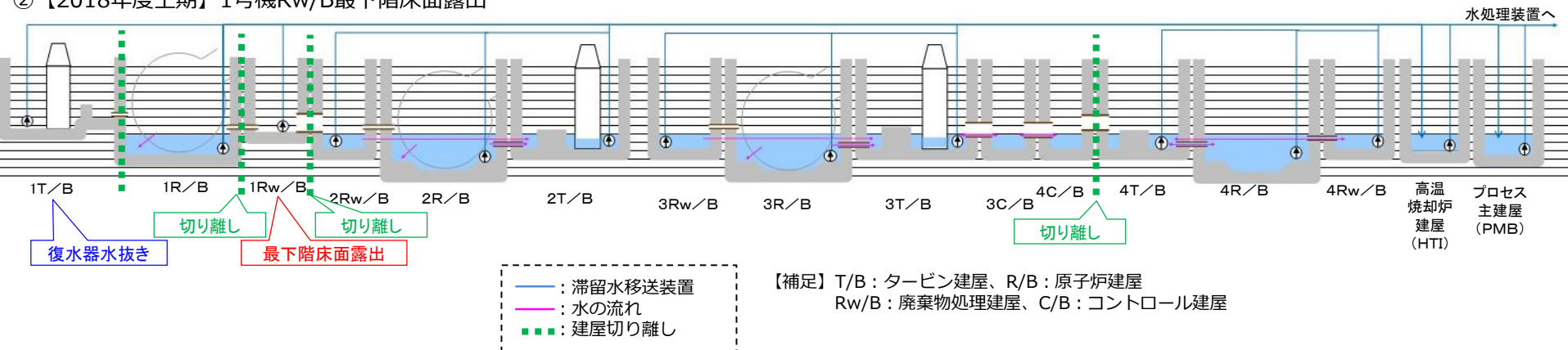
- 建屋滞留水の漏えいリスク低減として、建屋滞留水の量を減らす作業に取り組んでいる。作業の進め方は、地下水位と水位差を確保しながら建屋滞留水の水位を低下させ、床面レベルの高い建屋から順次床面を露出させる。
  - ・ この取組みの一環として、床面レベルの高い1号機タービン建屋（T/B）について、原子炉建屋から流入する滞留水の流れを切り離し（2016.3完了）、最下階の床面を露出させる予定。（2017.3）
  - ・ 1～3号機の復水器は、震災直後に貯留した高濃度滞留水により高線量線源となっている。このため、床面を露出させる作業の線量低減対策として、復水器内貯留水の水抜・希釈を進めている。
  - ・ 今後、1号機T/Bの実績を後続建屋での作業に反映することで、早期完了を目指す。（2020年内）

### <建屋滞留水の処理ステップ>

#### ①【2016年度末】1号機T/B最下階床面露出



#### ②【2018年度上期】1号機Rw/B最下階床面露出

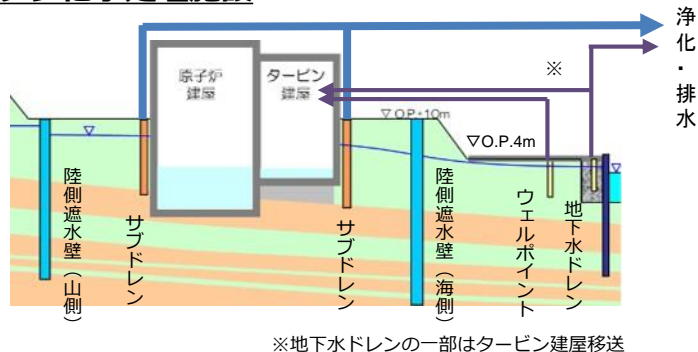




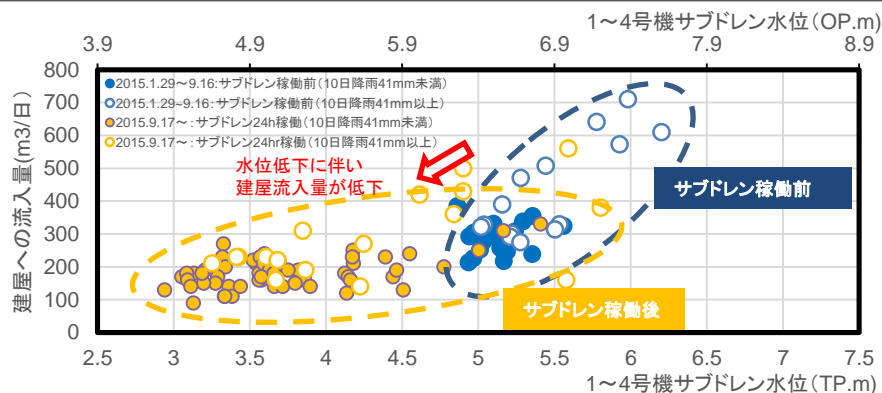
### 3.3.1 汚染源に水を近づけない（サブドレン、陸側遮水壁）

- 汚染水の発生を抑制する主な取組みとして、サブドレン他水処理施設の運用、陸側遮水壁の設置を進めている。
- 建屋への流入量（4m盤からの移送量除く）は、サブドレン稼働前と比較し減少している。
- 陸側遮水壁について
  - ・ 海側は、計画範囲の全面凍結を継続しています。また、凍結等の効果により、下流側（4m盤）からの地下水汲み上げ量は、凍結前（約400m<sup>3</sup>/日）から低下してきている。（直近では140m<sup>3</sup>/日程度）。
  - ・ 山側は、段階的に凍結範囲を拡大している。2016年6月より、未凍結箇所（7箇所）を除く山側の95%の範囲、2016年12月より、未凍結箇所のうち2箇所の閉合を開始した。また、残りの5箇所のうち、4箇所の凍結を2016年3月に開始した。

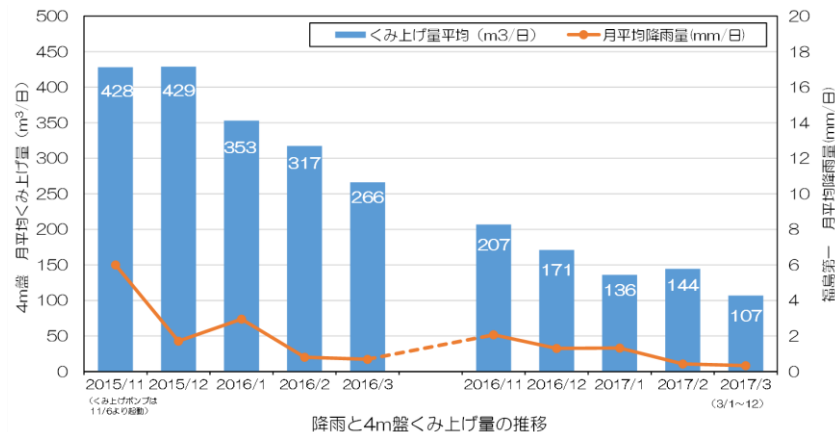
#### サブドレン他水処理施設



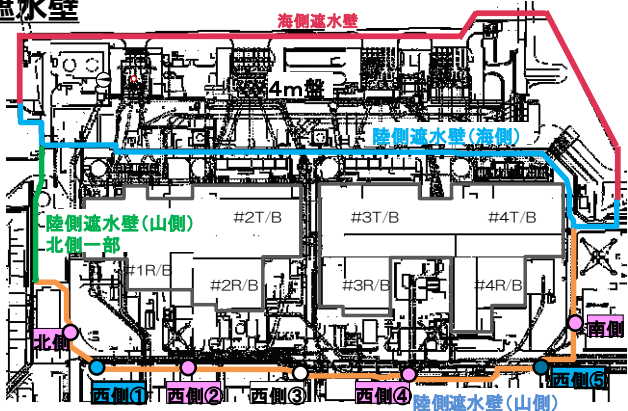
#### サブドレン水位及び建屋への流入量(4m盤からの移送量除く)相関図



#### 降雨と4m盤汲み上げ量の推移



#### 陸側遮水壁



- 陸側遮水壁第一段階(フェーズ1)凍結範囲 (2016/3/31~6/6) (緑線・水色線)
- 陸側遮水壁第一段階(フェーズ2)凍結範囲 (2016/6/6~12/2) (橙線)
- 陸側遮水壁第二段階凍結範囲 (2016/12/3~) (西側①、西側⑤)
- 陸側遮水壁第二段階凍結範囲 (2017/ 3/3~) (北側、西側②、西側④、南側)

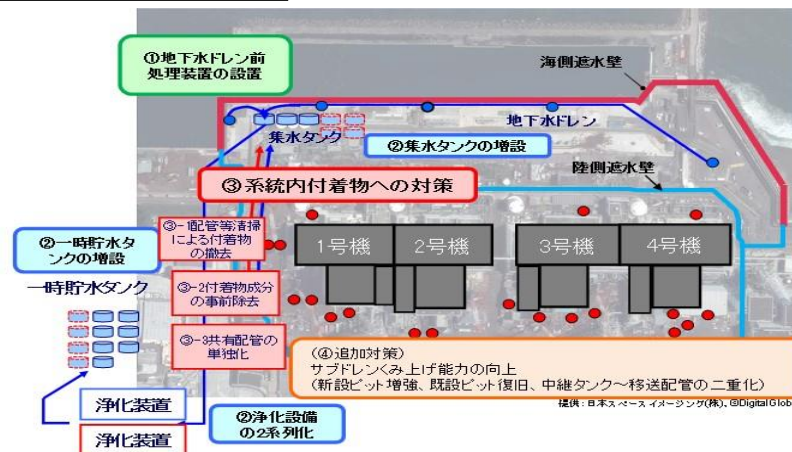
### 3.3.2 汚染源に水を近づけない（建屋への流入量の推移とサブドレン他強化）

- 建屋への流入量（4m盤からの移送量除く）は、汚染水対策の着実な実施により、降雨等の影響で一時的に増加する場合があるものの、対策前の状態（400m<sup>3</sup>/d程度）から低減し、200m<sup>3</sup>/dを下回ることが多くなっている。また、陸側遮水壁（山側）の凍結進捗により、更に減少する見込み。
- 現在、建屋への流入量を安定して抑制していくために、サブドレン処理系統の強化を実施している。また4m盤流入対策として10m盤・7.5m盤・4m盤フェーシング等の対策を実施中。
- 広域フェーシングによる排水路流入雨水増加対応として、新設排水路工事を2015年5月11日より工事を開始。2016年6月20日に通水を開始した。

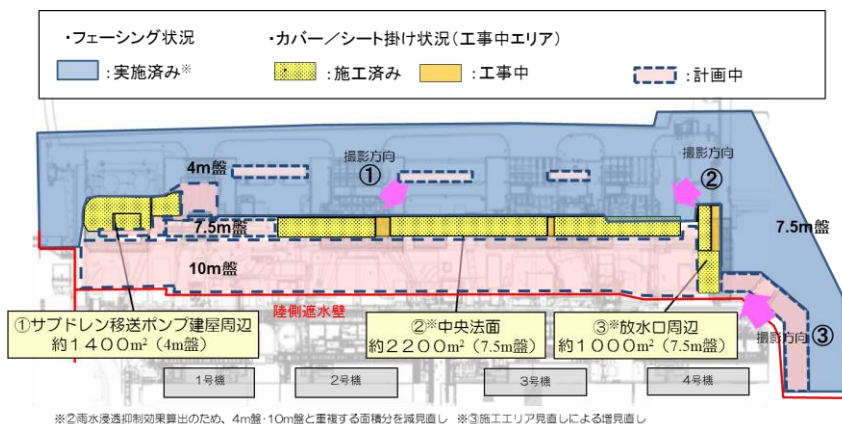
#### 建屋への流入量の推移



#### サブドレン他強化策概要



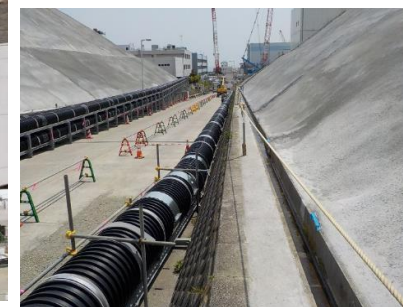
#### 10m盤・7.5m盤・4m盤 フェーシング実施状況



#### 新設排水路通水



北側ルート

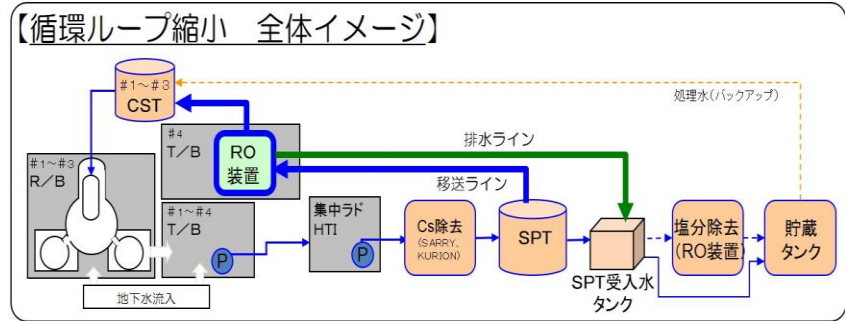
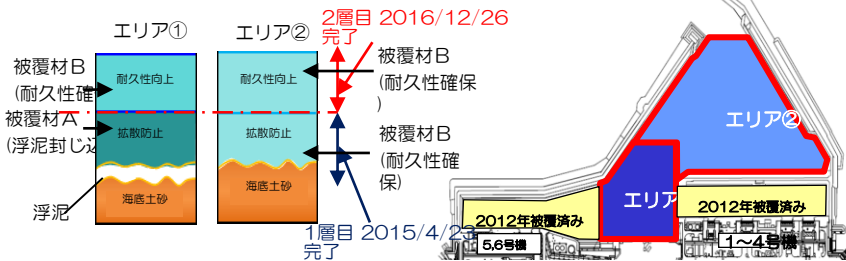


南側ルート

### 3.4 汚染水を漏らさない

- 港湾内海底土被覆工事の完了
  - ・港湾内海底土について、放射性物質の拡散防止のために実施した1層目の被覆(2015年4月完了)に加え、耐久性向上のための2層目の被覆工事が2016/12/26に完了した
- 循環ループ縮小運転開始
  - ・汚染水の漏えいリスクを低減するため、汚染水の移送、水処理、原子炉注水を行う循環ループのうち、淡水化 (RO) 装置を4号機タービン建屋に設置し、循環ループを縮小し、2016.10/7より運転を開始した。これにより、循環ループの屋外移送配管は約3kmから約0.8kmに縮小し、漏えいリスクが低減する。
- フランジタンクリプレース
  - ・フランジタンクから信頼性の高い溶接タンクへのリプレースを実施している。
  - ・フランジタンクのリプレースは、タンク大型化や配置見直しにより容量を増加する。

#### 港湾内海底土被覆工事

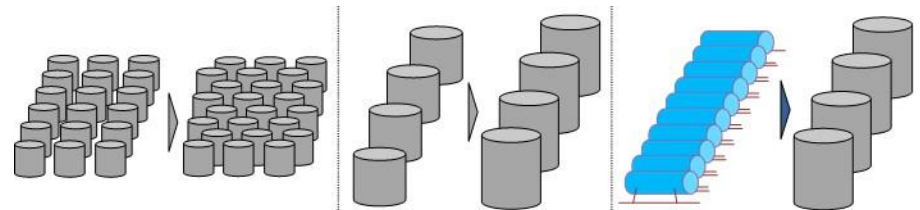


#### フランジタンクリプレース



#### リプレースの効率化

- ①タンク配置見直しにより敷地利用率を向上し、容量増加
- ②タンクの大型化により、容量増加
- ③横置きタンクを縦置きタンクに変更し、容量増加

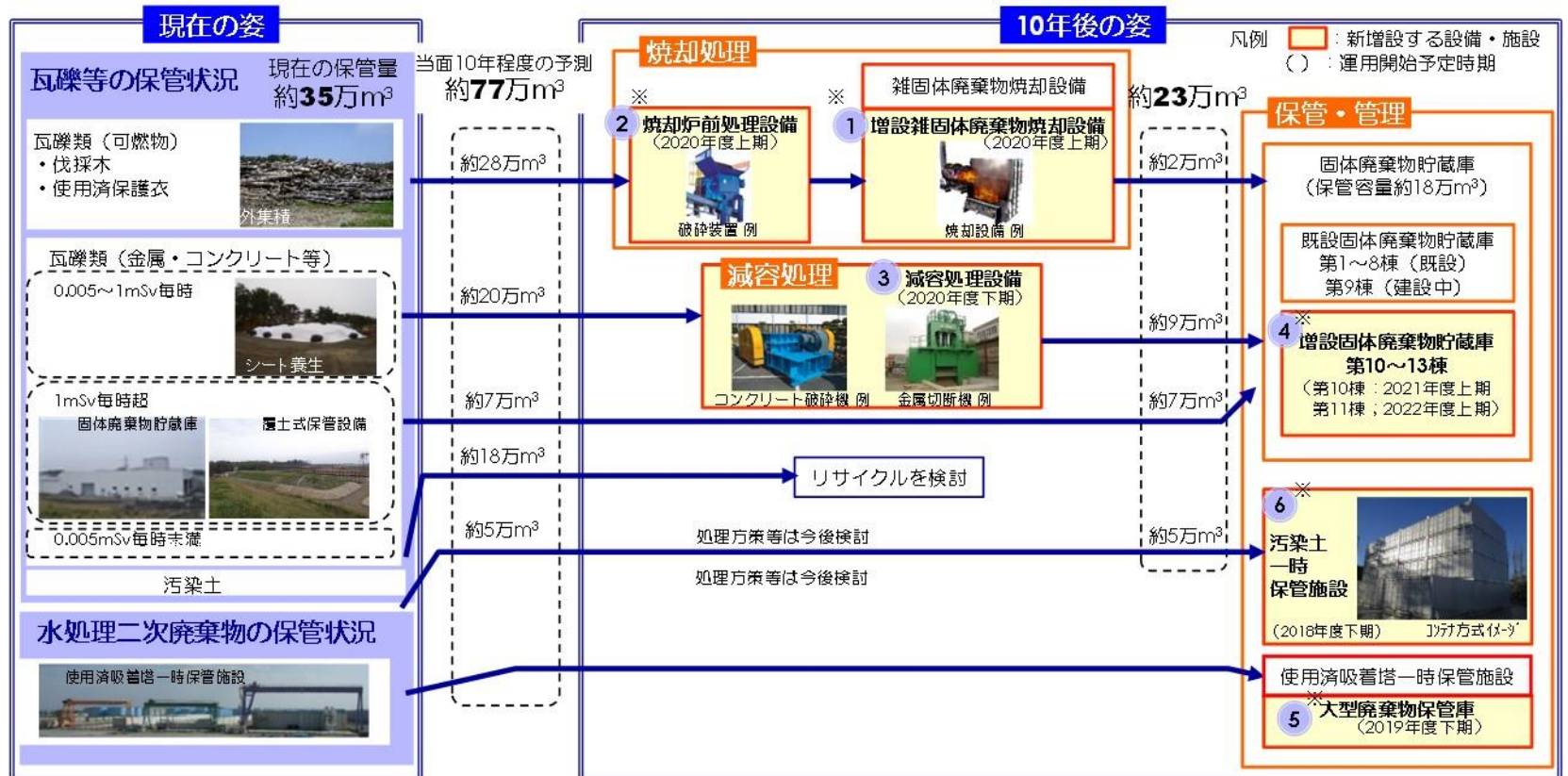


- ①配置見直しにより敷地利用率を向上
- ②タンクの大型化
- ③横置きタンクを縦置きタンクに変更

## 4. 放射性廃棄物の管理

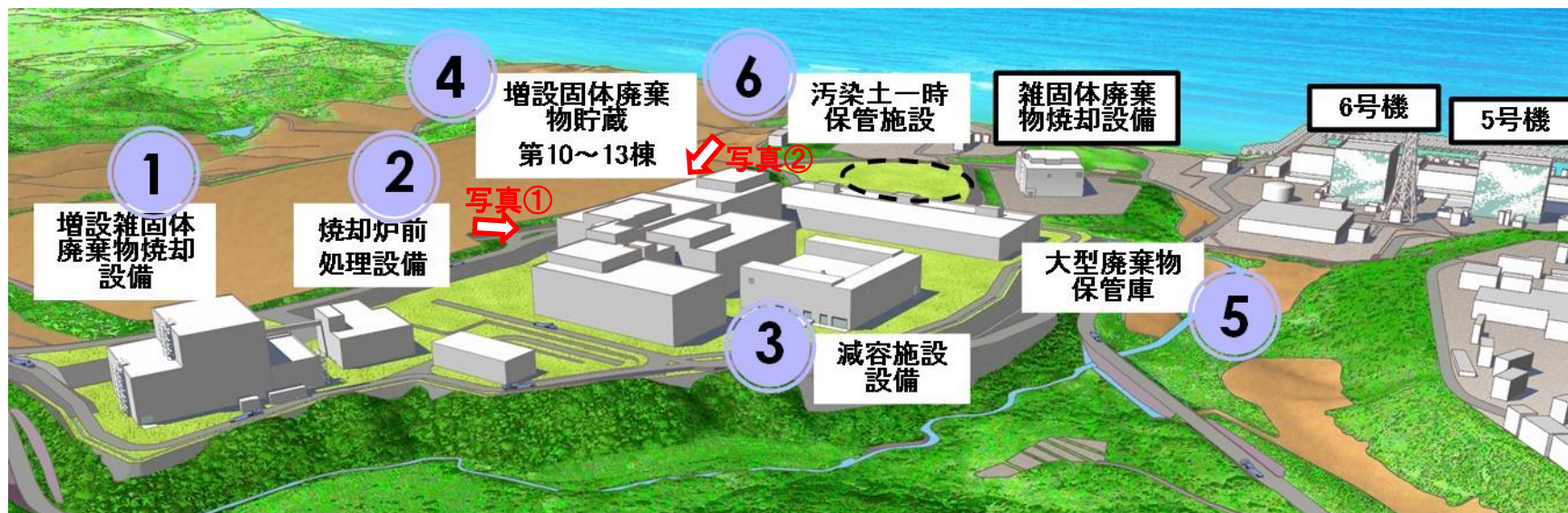
# 4.1 廃棄物関連施設の新・増設

- 現在、工事に伴い発生する廃棄物は、その線量に応じて分別し、固体廃棄物貯蔵庫や屋外で一時保管している。
- 廃棄物をより確実に保管していくため、当面10年程度の発生予測を踏まえ、保管・管理に必要な建屋を設けて、焼却・減容により廃棄物量を低減のうえ、建屋内保管へ集約、屋外の一時保管エリアを解消する。
- 水処理二次廃棄物は、当面、分類に応じた保管を継続すると共に、減容・安定化技術の開発を進め、処理方策等を検討する。
- この方針に基づく廃棄物関連設備の新增設計画について、2016年12月21日、福島県・双葉町・大熊町より事前了解を頂いた。(増設雑固体廃棄物焼却設備について、2017年4月より準備工事を開始予定)



補足) 写真、図は例示、又はイメージ

※) 各施設の概略配置図は、次ページ参照



設備及び施設設置のイメージ

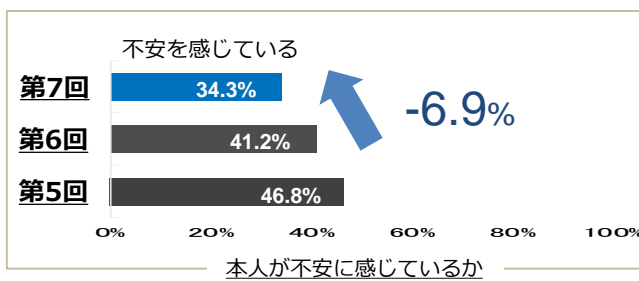
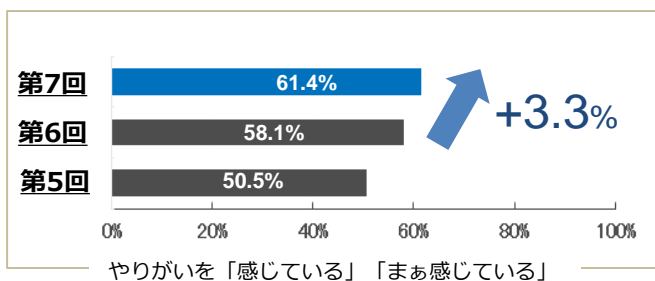


現場の進捗状況（2017.2.21）

## 5. 労働環境の改善状況

## 5.1 労働環境の改善に向けたアンケート【やりがい・不安】

- 福島第一原子力発電所で作業されている協力企業の方々の労働環境の改善に向け、アンケート（第7回）を実施し、約89%（6,182人）の作業員の方からご回答を頂いた。
- やりがい・不安に関する設問では、前回までと比較し改善傾向を示していますが、3~4割程度の方が不安を感じていると回答されている。
- アンケートの結果を踏まえ、引き続き、労働環境等の更なる改善を進め、「安心して働きやすい職場」作りに取り組んでいく。



■ アンケート実施方法 ■  
 対象：福島第一の作業に従事する全ての方（東電社員を除く）  
 方法：無記名式  
 期間：2016年8月26日～10月6日  
 回答者数：6,182人（6,975部配布、回収率88.6%）

No	やりがいを感じている主な理由	割合 (%)
1	福島復興のため(使命感)	50.3
2	福島第一の廃炉のため	32.6
3	自分の作業が廃炉に貢献出来ている	29.7

No	不安を感じている主な理由	割合 (%)
1	被ばくによる健康への影響	58.0
2	先の工事量が見えないため、いつまで働けるかわからない	44.7
3	現場での事故、ケガ、熱中症	33.1

### 取り組みの状況（「不安」緩和）

- 「被ばくによる健康への影響」について、現在、ウェブサイトにて構内の線量データなどを掲載し、皆さんにご覧頂けるようにした。

### 取り組みの状況（「やりがい」向上）

- 引き続き、ウェブサイト※に、皆さまがどのような思いで作業をされているかについてインタビューを通して掲載していく。

※ 1FOR ALL JAPAN <http://1f-all.jp/>

- 「先の工事量が見えないため、いつまで働けるかわからない」について、地元企業をはじめとする協力企業の方々に長期に働いていただけるよう福島第一の発注の9割を随意契約を適用している。



ウェブページ「1 FOR ALL JAPAN」にて公開（構内の線量データ）



## 5.2 新事務本館・協力企業棟

### ■ 新事務本館

- ・ 発電所内に建設された新事務本館を2016年10月より運用開始した。

### ■ 協力企業棟

- ・ 2017年2月より、協力企業が発電所敷地内にある協力企業棟に順次移転している。

これにより、協力企業と東京電力が密着した場所で執務することで、発電所全体が一体となり廃炉作業に取り組める環境となる。



新事務棟



新事務本館

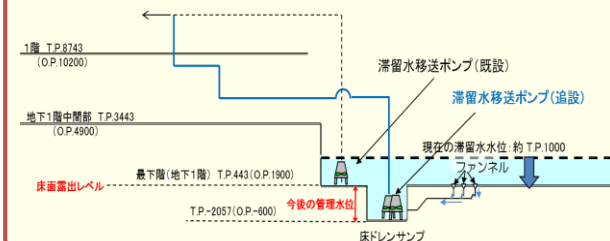
陸側遮水壁

- ・2016年 3月：海側凍結開始
- ・2016年10月：海側全箇所0℃以下
- ・2017年 3月：山側未凍結箇所（5箇所）のうち4箇所の凍結開始



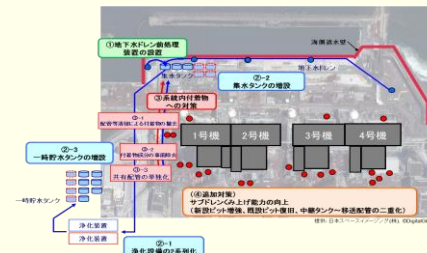
建屋滞留水処理

- ・2017年3月(予定)：1号機タービン建屋最下階露出



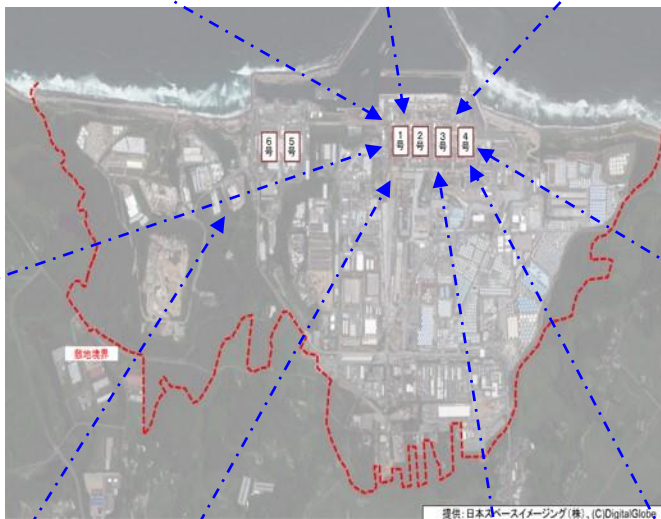
サブドレン他強化対策

- ・2017年1月：地下水ドレン前処理設備運用開始  
共有配管の単独化(順次供用開始)
- ・2017年3月：新設ピット増強中(順次供用開始)



1号機原子炉建屋カバー撤去

- ・2016年11月：壁パネル取り外し完了



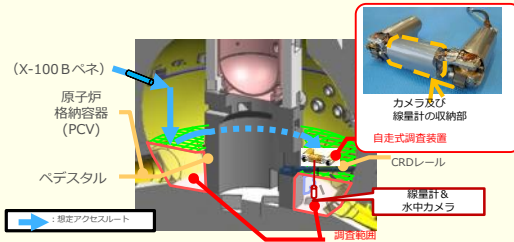
2号機格納容器調査

- ・2017年 1,2月：格納容器内部調査実施



1号機格納容器調査

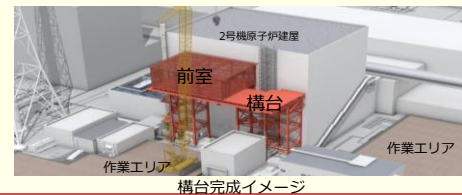
- ・2017年3月：ベDESTAL外地下階調査



2号機燃料プールからの燃料取り出し

- ・2016年11月：ヤード整備/路盤整備完了
- ・2017年 2月：構台設置完了

西側構台設置



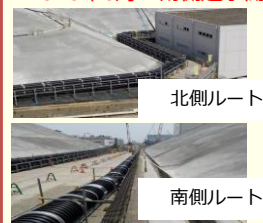
廃棄物関連設備の新增設計画

- ・2016年12月：福島県・双葉町・大熊町より事前了解を頂いた



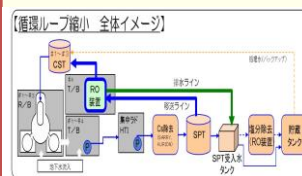
新設排水路

- ・2016年4月：北側通水開始
- ・2016年6月：南側通水開始



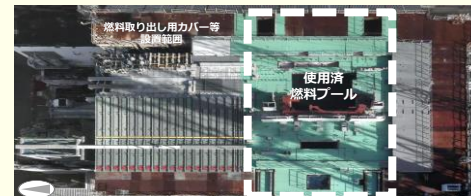
循環ループ縮小運転

- ・2016年10月：運転開始



3号機燃料プールからの燃料取り出し

- ・2016年12月： $\alpha$ 70床面遮蔽完了
- ・2017年 1月：燃料取り出し装置の設置開始



# 汚染水対策のこれまでの6年間の主な進捗

# 資料1 - 6 参考②

	2011～2012年	2013年	2014年	2015年	2016年～
近づけない	<p>建屋への地下水流入量</p> <p>約400m<sup>3</sup>/日 (2011.6～2014.5)</p>		<p>地下水バイパス稼働※1 【2014.5～】</p>	<p>サブドレン稼働※2 【2015.9～】</p>	<p>凍土壁（陸側遮水壁）※3 （海側）閉合完了 【2016.10】</p> <p>凍土壁（海側）の効果確認※3 【2017.1】</p> <p>敷地舗装92%完了※4 【2017.2時点】</p> <p>サブドレンの強化※5 【2016.10～】</p> <p>約200m<sup>3</sup>/日 (2015.9～2017.2) 約130m<sup>3</sup>/日 (2017.2)</p>
漏らさない	<p>周辺海域の放射性物質濃度※6</p> <p>約1万Bq/L (2011.3) (月平均)</p>	<p>溶接型タンクの増設※7 【2013.8～】</p>	<p>水ガラスによる地盤改良完了 【2014.3】</p>	<p>海側遮水壁閉合※8 【2015.10】</p>	<p>タンクの計画的な確保※9 【2016.11～】</p> <p>検出限界値 (0.7Bq/L)未満 (2017.2)</p>
取り除く	<p>敷地境界の追加的な実効線量</p> <p>約11mSv/年 (2012.3)</p>	<p>多核種除去設備 (ALPS)による浄化処理開始 【2013.3～】</p>		<p>タンク内汚染水の処理が概ね完了※10 【2015.5】</p> <p>2～4号機海水配管トレンチ内汚染水の処理が全て完了※11 【2015.12】</p>	<p>ALPS処理水の長期的取り扱いの検討 【2016.9～】</p> <p>1mSv/年未満 (2016.3達成)</p>
建屋内滞留水処理					<p>1号機タービン建屋を循環注水ラインから切り離し完了【2016.3】</p> <p>建屋滞留水放射性物質量の2014年度末比半減※12【2017.1】</p>
その他			<p>B・C排水路の港湾内への付け替え 【2014.7】</p>		<p>K排水路の港湾内への付け替え【2016.3】</p> <p>一般作業服着用可能エリアの拡大【2016.3】</p> <p>新設排水路の設置【2016.6】</p>

※1 累積排水量:約26万トン【2017.2時点】

※2 累積排水量:約28万トン【2017.2時点】

※3 2016年3月、海側の凍結開始。山側については97%凍結【2017.3】。護岸エリアでの汲み上げ量は、凍結開始前の約400トン/日から約140トン/日まで減少。

※4 発電所敷地内のフェーシング舗装を予定する対象エリア

※5 地下水ドレン前処理装置の設置【2017.1】、浄化設備の2系列化、汲み上げ井の増強等

※6 南放水口付近のセシウム137の値

※7 溶接型タンクは約85万トン（総容量約98万トンの約9割）【2017.1時点】

※8 これに伴い地下水ドレンからの汲み上げを開始【2015.11】

※9 2020年までに約137万トンの溶接型タンクを設置予定。また、Sr処理水受けのフランジ型タンクについて側板フランジ部への防水シール材等による予防保全策を実施し2018年まで使用を継続【2016.11～】。

※10 タンク内の濃縮塩水の浄化処理を完了。更なるリスク低減の観点からALPS処理を継続。累計約95万m<sup>3</sup>を処理【2017.2】

※11 建屋海側トレンチ内の高濃度汚染水の除去及び充填・閉塞を実施。充填量、計約1万m<sup>3</sup>。

※12 放射性物質量については、2016年12月及び2017年1月に実測した復水器内の放射能濃度等に基づき推定。